BY-NC-ND


オーラルセッション ― 要約

# パッケージサイズが摂食抑制者の摂食に及ぼす影響

## ― パッケージの摂食抑制効果に着目して ―

成蹊大学 経営学部 准教授
河塚 悠

**キーワード**
食品，消費量，ダイエット，無自覚，過食

本研究の目的は，提供する食品のパッケージサイズが摂食抑制者の食品の消費（以下，摂食）にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにすることである。

消費者は少量の食品が入っている小さなパッケージが摂食の抑制に役立つと思っている。特に，摂食抑制者はよりその傾向が強く，摂食を抑制するためには多量の食品が入っている大きなパッケージから摂食することを避けるべきだとも考えている。しかし，摂食抑制者の摂食量は，同じ総量の食品を小さなパッケージから摂食する場合よりも大きなパッケージから摂食する場合のほうが小さくなり，彼らの摂食抑制には大きなパッケージのほうが役立つことが指摘されている。本研究は，なぜこのような現象が起きるのかを理解するために，実験室実験で収集したデータを用いて検証した。その結果，パッケージサイズは摂食抑制者が食べてもよいと考える摂食の許容量に影響を与えることで，実際の摂食量に影響を及ぼしていることが明らかになった。そして，大きなパッケージは小さなパッケージよりも摂食抑制者に許容量を小さく評価させることで，彼らの摂食量を小さくすることに寄与していることが示された。

**謝辞**

本研究は令和２年度 科学研究費 若手研究 課題番号20K13613「パッケージがどのように消費行動に影響を及ぼすのか：ダイエットの視点からの実証研究」の助成を受けて進めたものである。本研究の実験には，富山大学および成蹊大学の在学生（当時）にご協力いただいた。ここに感謝の意を表する。


© 2023 The Author(s). 本稿はCC BY-NC-ND 4.0の条件下で利用可能。